



心から心へ

令和 6 年 9 月 10 日
発行

No. 77

才能教育研究会
東海地区三科会

「心から心へ」コンサートに注目の音楽 曲の紹介

音楽は
世界を救う
カザルス
熊一



写真提供：後藤孝郎氏

よいものを目ざして繰り返す

環境に適応して能力は育ちます。

そして、訓練のあるところ、繰り返しのあるところには、いいことであろうと悪いことであろうと、あるいは、美であろうと醜であろうと、能力は身についていく。これが原則です。

環境が悪ければ悪いものが育ち、環境がみにくければみにくいものが育つ。本人はなんにも気がつかないうちに、それが育つことが問題なのです。

オオカミに育てられたカマラ。その環境は人間の目から見ればみにくいものでしたが、カマラ自身は、それをみにくいともなんとも気づかずに、あるがままの環境に染まり、能力を身につけていったのです。

ですから、親として子どもを育てる場合、いいもの

のを育てるということに、まず主眼をおくべきですし、子どもの幸福のために何が大事かということを考え、その繰り返しをさせなければいけないのです。

ただ繰り返せばいいだけではないのです。音楽の場合ですと、おけいこのしかた、何をどういうふうにするか、が問題になるのであって、悪いものを、なんの考えもなく繰り返していれば、悪いものが育つばかりなんです。

よりよいものへ、より高いものへ、これを目ざして繰り返す、ということが、いつも心の底になければいけないのです。

「才能開発は0歳から」復刻版 48 頁より

//////////////////// 東海グランドコンサートのお知らせ //////////////////////

東海グランドコンサートが、来年 2025 年 5 月 6 日 (火・祝) 東海市芸術劇場で開催される事が決まりました。東海地区の皆さん全員が参加できるコンサートです。コンサートに向けてのリハーサルも予定されます。曲目、日時など決まりましたら順次お知らせいたします。

//////// 9 月 26 日 (木) ~ 29 日 (日) 全国指導者研究会が松本で開催されます。 //////////

この期間はレッスンがお休みになります。

第73回夏期学校 2024.7.28～31

5年ぶりに現地参加のみで開催された今年の夏期学校。
何年も続けて参加していた方も、初めて参加した方も
みなさんキラキラの笑顔で過ごした4日間でした。

5年ぶりの参加である今回のクラス別レッスンの曲は研究科Aで先生も特別講師である江口有香先生ということもあり、身の引き締まる思いで参加し、レッスンへ臨みました。ですが江口先生はとても優しく、緊張はすぐに“楽しい”に変わって様々なことを学ばせていただきました。課題曲について、音楽について、江口先生のコンサートの演奏のような魅力的な弾き方について、ここには書ききれないほどのことを学ばせて頂きました。そして色々な先生方の素敵な音楽に触れ、目に耳に焼き付けることも出来ました。そのおかげで自分の音楽を理想の音楽へと近づけることが出来ました。猛暑が続く中、素晴らしい指導をしてくださったことを心から感謝いたします。 新井里穂（14歳）

今回5年ぶりの夏期学校は、私たち親子が鈴木先生の教えに立ち返る大変貴重な夏期学校になりました。江口有香先生のクラス別レッスンではCDを聴くことの大切さ、復習曲の大切さ、そして子どもを褒めて楽しくレッスンをする事などスズキの基礎を思い出させてくださるレッスンでした。また娘は弦楽のクラスに初めて参加しましたが先生のご指導を食い入るように聞き、いい演奏をしようとする仲間の姿勢に娘はとても刺激を受けたようでした。来年も参加したいねと今から親子で話しています。

松本も名古屋程ではありませんが暑い日が続きました。そんな中ご指導くださった先生方、また実行委員の先生方に心より感謝申し上げます。 新井里穂（母）

わたしは、今年初めて夏期学校に参加しました。たくさん仲間とグルーブレッスンをしたことが楽しかったです。教室別レッスンでは、ヴィヴァルディ協奏曲 g-moll の教室でした。3連符の練習を「バナナ食べた」の言葉に乗せて練習したり、ビブラートの練習を集中してしたりしました。新しくお友達になった子と来年も会おうね！と約束しました。

川上美帆（10歳）

7/29 17:30～19:00のおけいこ相談に参加いたしました。東先生は、子どもが弾いたフレーズなり曲なりを、子ども自身がその都度3段階くらいの評価をすると良いですよとのアドバイスをしておられました。子どもが評価するにあたり親は、子どもとディスカッションし、子どもが出した評価について完全に受け入れてくださいと断言されました。子どもに詰問したり、評価に対してペナルティを課したりは決してなさらないように。ともおっしゃっていました。

川上雅美（母）

お友達ができて嬉しかったです。先生方に教えてもらったことを今まで習った曲や新しい曲に活かしたいです。 額額いろは（8歳）



全国から多くの先生方に違う表現や方法で、情熱と愛情に溢れたレッスンを受けることができました。新たな気付きや学びが多くあり、またスズキメソッドの本質を肌で感じる事ができたように思います。子どもたちは皆、活気に満ちていました。楽しみ考えながら演奏する姿がとても印象的でした。娘からは「もっと松本にいたかった！来年もまた行きたい！」と前向きな発言を聞くことができ嬉しかったです。先輩方と一緒に学んだ仲間から刺激を受け、自宅では自ら意欲的に練習する姿がみられ成長を感じました。この経験を忘れずに気持ちを維持して、次の夏まで過ごせるよう願っています。 額額 愛（母）

グルーブレッスンのベッカーのガボットがたのしかったです。 小西 遥（7歳）



昨年に続き、2回目の現地参加です。今回娘はヴィヴァルディの a-moll のお教室でした。今回の夏期学校ではグルーブレッスン、教室レッスン共に復習曲の大切さを謳われていて嬉しく感じました。午前午後2時間ずつのお稽古ですが子供が飽きないけれど、楽しすぎて崩壊しない絶妙なレッスンをしていただけたので子供もしっかり参加することができました。大勢

で一緒にお稽古でき、仲良くなったお友達もおり、楽しそうでした。教室別レッスンで出された宿題のお稽古をする為にあがたの森で朝お稽古もでき、充実した時間を過ごせたと思います。折角鈴木先生が作ってくださった機会ですので、参加者が増えると良いなと思います。 小西（母）

夏期学校は、グルーブレッスンが楽しくて、全体合奏もすごくヴァイオリンが上手になると思いました。家でも頑張りたいです。 杉本百合香（9歳）

夏期学校は、先生が楽しかったです。もっといたかったです。また行きたいです。 杉本美和（7歳）



夏期学校は、音楽に溢れ充実した4日間でした。先生方の工夫を凝らした愛情いっぱいのレッスンを親子で楽しみました。クラス別でも、楽しみながら、基礎から具体的な練習方法まで細かくご指導頂きました。お別れコンサートは500名以上の生徒が舞台と客席で演奏、会場いっぱいに音が響きました。全体合奏で弦が切れ、弦は鞆に入れておかねばと勉強になりました。ヴァイオリンの娘は、合奏で竹澤恭子先生の隣になり、頭の上で先生の音が鳴るという、夏期学校ならではの貴重な経験をしました。このような素晴らしい環境を頂けて幸せに思います。お世話になった先生方、保護者の皆様、本当にありがとうございました。 杉本（保護者）

今年の夏期学校では弦楽Aに参加しました。私が弦楽に参加するのは二回目です。弦楽AでもBでも、どんな弦楽でも毎回感じるがあります。私は弦楽の練習をするときにその曲のCDに一人で合わせて練習するのですが、一人でCDに合わせる練習と、皆でその現場で合わせてゆく練習は全く違うということです。当たり前のような事にみえますが、毎回毎回「あっ、全然違うことなんだな」と気づき、驚きます。どうして違う事なのかは、その瞬間瞬間に合わせるからだだと思います。CDはいつも同じように流れてくれますが、皆で合わせてゆく時はそうではありません。一回目に合わせた時と二回目に合わせた時では違うものになっていると思います。それにこちらもう違うものになりながら合わせてゆく、合わせる努力をしてゆき

ます。しっかり合わせ切ることはとても難しいものだと思いますが、その作業があるために確かな違いがうまれるのではないかと感じます。一人でCDに合わせる事よりも、皆で合わせる弦楽の方が楽しい事は間違いないです。一人でCDに合わせる練習や、一人でする練習とは全く違う弦楽が夏期学校にあってよかった、と毎回思います。夏期学校を今年も行うために努力を尽くしてくださった先生方、暑い中付き合ってくれた父母、本当にありがとうございます。来年もよろしく願いいたします。 坪木彩夏（12歳）

今年の夏期学校も多くのお友達との再会、出会いがありました。親子でヴァイオリンだけに向き合えるのは夏期学校ならではの贅沢な時間です。主催者はじめ先生方々の数々のご準備のおかげで、かけがえのない経験が毎年出来ているのだと、感謝申し上げます。レスピーギの弦楽に娘は参加し、音をあわせ創り上げていく過程では、先生と子供達の少しでも良い演奏をしたいという情熱と音に向き合う真摯な姿をそばで見ていて感動いたしました。お別れコンサートで晴れ晴れと気持ちよく楽しそうに弾いている姿を見ることができ、親にとっても夏期学校は素晴らしい体験だと再度認識いたしました。沢山のお友達と再会を約束して、抱えきれない感動と沢山の課題を持って帰宅いたしました。 坪木敦子（保護者）

子どもが「いい音をだしたい。」と希望し夏期学校に参加しました。教室別とグルーブレッスンで1つの曲に対して先生方から弓の使い方や曲のポイントなどを教えていただきました。一つの音を何度も弾いたり聞いたりしていい音を出す練習をして子ども自身が『いい音』を感じていました。初日と最終日には音も弾き方も表情も変わっていました。ピアノの音とチェロの音を合わせることに意識するようにご指導をいただき、気にしながら弾くようになりました。そして多くの仲間と演奏できることが楽しそうでした。また昨年出会った仲間との再会や新たに出会った仲間との交流も楽しんでいました。4日間音楽に向き合い、有意義な時間となりました。 野村靖代（保護者）

うちでは夏と言えば夏期学校、というほど夏期学校に行くのが当たり前でした。これまで夏期学校に参加して得たものは、主に2つあります。1つ目は、夏期学校でしか作れない遠くに住んでいる友達です。僕が小学1年生で初めて参加したときは友達はいませんでした。回数を重ねるうち、ここでしか会えない友達ができ、夏期学校がだんだん楽しみに became。コロナ禍で夏期学校がオンラインになった時は本当に残念でした。2つ目は、仲間と合奏や弦楽する楽しさです。弦楽を合わせた時の一体感は、他では得ることのできない高揚を感じます。また、今年もクラスで参加した夜のコンサートも、とても緊張しましたが、無事に(?)弾き終えた時の達成感は、何にも変え難い

です。夏期学校に参加することは僕にとってとても有意義なものであり、ヴァイオリンをここまで続けるモチベーションにもつながりました。僕は今年、高校2年生で、夏期学校は今年で最後になりそうです。皆さんも、ぜひ夏期学校に参加して思い出を重ねていて下さい。

東裏旺武 (17歳)



今回、僕は松本での夏期学校が4回目で、バッハのコンチェルトホ長調を江口有香先生から指導を受けることができました。このレッスンでは、お手本の音源と聞き比べて、どのような曲にしたいかをみんなで話し合っていました。改めて曲のポイントを確認したり、新たな視点を見つけ出したりすることができました。また、4人の先生が弦楽伴奏をしてくださり、より曲のイメージを形にすることができました。弦楽Aの「リュートのための古風な舞曲とアリア」では、ビオラに挑戦しました。難しかったですが、何とか合わせることができました。素敵に仕上がって良かったです。とても充実して、楽しい4日間を過ごすことができました。今回学んだことを、これからの練習にしっかり生かしていきたいです。

広瀬裕大 (13歳)

今回、私はラ・フォルアクラスで松本での夏期学校は2回目でした。前回の夏期学校やブライアンキャンプで会った友達と同じクラスになりました。久しぶりに友達に会うことができて楽しかったです。初日のグ

コンサート情報

日 時	コンサート名	場 所
9月8日(日) 開演13:30	大野佳子クラス コンサート	名古屋西文化小劇場
9月14日(土) 開演14:00	吉野クラス ヴァイオリンコンサート	豊田市民文化会館 小ホール
10月6日(日) 開場13:00開演13:30	平野クラス ヴァイオリンコンサート	愛西市文化会館 ホール
10月13日(日) 開場13:00開演13:30	伊藤達哉クラス ヴァイオリンコンサート	西文化小劇場
10月27日(日) 開場13:00開演13:30	森林クラス ヴァイオリンコンサート	可児市文化創造センター ala小劇場 虹のホール
12月15日(日) 時間未定	アンサンブル もくりん	西文化小劇場

東海オフィス

東海オフィスへの連絡はメールのみの受付になります。

ループレッスンで江口有香先生が私のすぐそばでヴァイオリンを弾いていて、緊張したけどうれしかったです。レッスンでは、曲のメロディーに合わせたいろいろな息の吸い方や、ヴァイオリンを弾く前に、弓先を決めること(パンダ)を教えてくださいました。これから練習するときに、自分の音をよく聞くようにしようと思いました。

広瀬帆七美 (10歳)

まつもと市民芸術館の主ホールの舞台いっぱいにヴァイオリンを抱えた子供たちが並び、講師の先生の指示で一斉に音を奏でる。「夏期学校が戻ってきたなあ」と実感しました。今回は参加人数も増え、会場は昨年以上に活気に溢れていました。スペシャルコンサートで先輩の演奏や、特別講師の先生方の演奏は素晴らしく迫力のあるものでした。夏期学校はクラス別のレッスン、グループレッスン、弦楽団と各教室で経験豊富な先生方から指導を受けることができることも魅力の一つだと思います。「おうちで普段の練習からやってみてください」と教えていただいたことは、夏期学校のお土産だと思います。今回もたくさんのお土産をいただいて、充実した4日間を過ごすことができました。

広瀬藍香 (保護者)

夏期学校を終えて、今年とおとしの夏期学校をくらべてみると、今年の夏期学校の方が良かったと思いました。理由は二つあります。一つ目は、オンラインじゅ業の時とはちがひ、ヴァイオリンや、フルート、ピアノと共えんする事ができるからです。二つ目はふだん聴く事のできない、とくべつこうしの先生方が楽器を弾く音や、鈴木先生がコンサートで楽器を弾く音も聴く事ができたからです。

今年の夏期学校は、とても楽しく、しかも、とくべつこうしの先生方のコンサートを聴く事もできたので、来年も夏期学校に行きたいです。森林 祥 (9歳)

数年ぶり通常開催の夏期学校は、松本の暑さも音楽に包まれる光景も変わらず、とても懐かしいものでした。全国より多くの先生方がお越し下さり、準備からレッスンまできめ細やかにご尽力下さいました。心より感謝申し上げます。4日間のレッスンは、子供たちにとってはとても疲れるものだと思いますが、みんな長いレッスンにも進んで参加し、コンサートでも真剣に音を聴こうとする姿はとても美しく、「どの子も育つ」という鈴木先生の教育理念が根付いている証だと感動しました。帰路多少疲れていたものの、楽しかったと言ってくれた娘は、大人になった時、この夏期学校を甘く懐かしい子供時代の大切な思い出としてきっと思い起こしてくれるのでしょう。

森林友梨クラス (保護者)

<東海オフィス>メールアドレス suzukimethod_tohkai@yahoo.co.jp

<東海地区HP><http://www.suzukitokai.com>

<編集>神尾・松本・戸村/矢島 (指導者)

<印刷レイアウト>東海タイプ商会 TEL 090-3562-5993

E-mail info@tokaitype.jp